

2025年度業務実績報告書

提出日 2026年 1月 15日

1. 職名・氏名 特命教授 村上 茂

2. 学位 学位 薬学、専門分野 生化学、授与機関 東京薬科大学、授与年 1986年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 臨床薬理学（2単位）2年生
② 内容・ねらい さまざまな薬物が生体で働く作用を分子レベルで理解する。また、薬物が体内に吸収された後の体内動態についても理解する。さらに、医療現場での業務に関わる、薬物の副作用や健康被害、病院での薬剤業務など実務的な内容についても学習する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義では製薬会社での医薬品開発の経験も盛り込みながら、薬物の作用や作用メカニズムについて講義を行っている。また、教科書以外にも薬理に関する最新情報も織り交ぜながら、興味を持って聴講してもらえる様、工夫した。毎回講義の最初に、前回行った講義内容について小テストを実施し、前回の内容を思い出し復習できるようにしている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 臨床栄養学・生化学（2単位）2年生
② 内容・ねらい 平井先生の病欠に伴い、講義を担当した。食物の摂取から消化、吸収、体内での代謝にいたる栄養学の生理・生化学的な基礎知識を学習する。また後半の講義・演習では、食品の特徴と調理の基本を中心に、病態に即した治療食について学ぶ。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 看護における栄養学の位置づけは看護関連の講義に比べ高くない。講義では基礎的な知識を確実に理解してもらうことを心掛けた。また、小テストとして国家試験の過去問出題し、回答してもらう等の工夫をした。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業研究（看護学科）（3単位）4年生
② 内容・ねらい 基盤看護学分野の健康科学領域で、主に実験動物とヒトを対象として、福井県産の農林水産物や生薬などの腸内細菌を介した肥満や糖尿病の予防効果を検討する。これらの実験を通して、生活習慣病予防や健康長寿実現における食の重要性を理解する。また、関連文献を読み、得られた実験結果を卒業論文としてまとめるという科学的研究過程を経験し、修得する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

卒論生には看護学科の卒業研究として、ヒト試験を含め福井県産食素材の機能性評価を課題として与えた。また研究と並行し、月に1回程度関連する領域の論文購読を課し、研究の周辺状況の理解や科学的論文の執筆や発表技術が身につくよう工夫した。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

基礎看護学特別研究（10単位） 大学院（看護福祉学研究科）

② 内容・ねらい

看護学と社会福祉学の両分野がそれぞれに連携し、高い教養と見識に裏付けられた専門知識・技術・研究能力を身につけ、高度な実践活動と豊かな創造力を基盤にして後進の教育・指導ができる看護・社会福祉分野のリーダーとなる人材を育成することを目的とする。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

基礎看護学領域での修士論文として、動物を用いた薬効評価研究を行った。他大学の先生方と連携して研究を進め、できるだけ多くの研究者と交流できるようにした。また、得られた成果を3つの学会で発表を行ってもらい、他の研究者の評価を仰いだ。関連する領域の英語の論文購読を課し、月に1回読んだ論文紹介をしてもらい、実験だけでなく関連研究の最先端情報の修得も行えるようにした。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

健康生活科学特論（2単位） 大学院（健康生活科学研究科）

② 内容・ねらい

人間の健康と生活にかかわる多岐にわたる現象や課題について、医療人類学、医学、病理学、食品機能学、看護学の視点から多角的に学び、健康上・生活上の課題を科学的・客観的視野から探究・評価し、現象理解と問題解決のための方策を立案・実行する能力を身につける。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

私の担当では、食と健康長寿について講義を行った。健康維持や疾患予防において食は重要であるが、看護福祉領域では食に対する理解や利用はそれほど進んでいない。講義では、栄養素や食品の機能等、基礎的な情報に加え、応用面として病気や健康長寿、福祉と食関連性や応用についても説明を行い、理解を深めてもらうよう工夫した。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	
1. 健康長寿は万能物質タウリンで「ラクに長生きしたい人のためのよくばり健康法」(共著) 新潮新書 2025 年 6 月 20 日 新潮社	【1 本】
② 学術論文 (査読あり)	
1. Łagowska K, Jurgoński A, Mori M, Yamori Y, <u>Murakami S</u> , Ito T, Toda T, Pieczyńska-Zajac JM, Bajerska J. Effects of dietary seaweed on obesity-related metabolic status: a systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials. Nutr Rev <u>83</u> , e116-e130 (2025).	
2. Tsuboi A, Khanom H, Kawabata R, Matsui T, <u>Murakami S</u> , Ito T. Taurine ameliorates cellular senescence associated with an increased hydrogen sulfide and a decreased hepatokine, IGF1, in CCl4-induced hepatotoxicity in mice. Redox Biol. 103640 (2025).	【2 本】
③ その他論文 (査読なし)	
* 1. Aha Laqi, <u>村上茂</u> , 胆汁酸と腸内細菌を介したタウリンの生体機能調節作用～タウリンが胆汁酸代謝と腸内細菌叢に与える影響, タウリンリサーチ, <u>11</u> , 23-27 (2025)	【1 本】
④ 学会発表等	
1. Aha Laqi, <u>村上茂</u> , タウリンの胆汁酸代謝および腸内細菌叢に対する作用 ～タウリンの長期投与効果における性差～ 国際タウリン研究会日本部会学術集会, 2025 年 3 月 (前橋)	
2. Aha Laqi, 加登谷知世, 大平紘義, 古澤之裕, 蔵川卓土, 宮崎照雄, 松崎千秋, 有馬寧, 伊藤崇志, <u>村上茂</u> , タウリン長期投与のマウス腸内細菌叢と肝機能に対する影響, コ・メディカル形態機能学会 第 23 回学術集会 (福井), 2025 年 9 月	
* 3. <u>村上茂</u> , 加登谷知世, 山本侑輝, 湯前美優, Aha Laqi, 松崎千秋, 古澤之裕, 海藻アカモクのヒトに腸内細菌叢改善作用, コ・メディカル形態機能学会 第 23 回学術集会 (福井), 2025 年 9 月	【3 件】
⑤ その他の公表実績	
(1) 記者発表	
・越前おろしそばの腸内細菌叢に対する作用をマウスで解明! 2025 年 11 月 13 日	
(2) テレビ出演 (2 件)	
・「ザ! 鉄腕! DASH!! DASH 海岸～アカモク～」(日本テレビ) 2025 年 5 月 4 日	
・「冬の食べすぎ対策」おじゃまっテレ・健康いちばん (FBC テレビ) 2025 年 12 月 9 日	
(3) テレビ放映 (2 件)	
・アカモクのヒト腸内細菌叢改善作用 福井テレビ news イット! (福井テレビ), おじゃまっテレワイド&ニュース (FBC テレビ) 2025 年 11 月 13 日	
(4) 新聞記事 (4 件)	
・越前おろしそばの腸内環境改善作用、福井新聞、県民福井、朝日新聞、読売新聞 (4 紙) 2025 年 11 月 15 日	【9 件】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】	
①科研費 基盤研究 C 腸内細菌を介したタウリンの健康増進効果の解明 455 万円/3 年 2024.4.1 – 2027.3.31	
②共同研究 キチンオリゴ糖の重合度による機能性解明と製品開発 (甲陽ケミカル) 550 万円	
③受託研究 ルテオリンの脂肪肝に対する作用の解明 (中原) 200 万円	

【学内】

- ①戦略的課題研究推進支援 福井県産食材の腸内細菌改善を介した健康増進効果の解明
210 万円

(3)特許等取得

(4)学会活動等

①学会での役職など

- ・国際タウリン研究会日本部会 理事長（2014 年 11 月～現在）
- ・International Taurine Society 理事（2017 年 5 月～現在）
- ・日本なつめ研究会 会長（2019 年 1 月～現在）
- ・NPO 法人世界健康フロンティア研究会 副代表理事（2022 年 8 月 1 日～現在）

②学会でのコメンテーター、司会活動

- ・第 11 回国際タウリン研究会日本部会，2025 年 3 月，座長

5. 地域・社会貢献活動

①公開講座：

- ・海藻を食べて元気に長生き！～アカモクの腸内環境改善と生活習慣病予防効果～
2025 年 6 月 12 日（Zoom）
- ・＜魚介のタウリン＞老化予防効果を徹底解説 2025 年 10 月 13 日（対面）、アオッサ

②NPO 法人への参加：世界健康フロンティア研究会・副代表理事 2022 年～

世界中の人々に対する予防を含む健康科学の推進

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

(3)学内行事への参加

(4)その他、自発的活動など